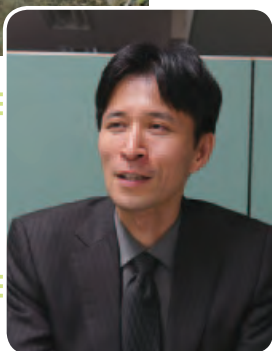


全国の子どもたちの力で 被災地に緑と心の復興を



どんぐりひろいバスツアー in宮城(9月29日、宮城県登米市)



森や木と親しむことによって、子どもたちが森の恵みを理解し、それが持続的に活用されていくためにはどうすればいいのかを考え、実行に移せるように育てたい——こうした思いが、フォレスト・サポーターズへの登録へとつながりました、と語る事業課の大西亮真さん。

フォレスト サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

財団法人 日本環境協会



森をささえよう

「子どもエコクラブ」は事業課の柱となっている事業のひとつで、平成7年から環境省によって実施されていた事業を、昨年度から日本環境協会が実施しています。これは、子どもたちが「環境にいいことは何だろう」と考え、自分たちで実施する環境活動のクラブで、今年10月末現在で全国の登録クラブ数は2222。会員数は

もうひとつの柱である「プロジェクトD」は、昨年度からスタートした事業で、昨年3月11日に発生した東日本大震災に対して、全国の子どもたち呼びかけ、一緒に復興を応援したいという思いから生まれました。昨年は国際森林年であるとともに、国連の定めた「生物多様性の10年」の幕



森と暮らそう

私たち日本環境協会では、NPOを含めた市民の皆さんと行政、企業、学校など、さまざまな環境に関わる多くの主体をつなぎ、持続可能な社会づくりに向けて参加できるような「しくみ」づくりとその支援を目的に、さまざまな事業を行っています。

私の所属している事業課では、子どもの自主的な環境保全活動を推進する環境教育事業や環境についての知識や経験を活用して助言を行う方を登録する環境力ウンセラー事業、環境問題に関心をもつ方への環境教材提供などを行っています。

財団法人日本環境協会は、持続可能な社会の実現を目指す人々を結び架け橋となり、多くの主体が参加し活用できる「しくみ」づくりと、その支援を行うことを目的に昭和52年3月に設立されました。今回は、幼児(3歳)から高校生まで誰でも参加できる環境活動クラブ「子どもエコクラブ」や、東日本大震災の被災地と子どもたちの心をつないだ生態系保全を目指す「プロジェクトD(どんぐりプロジェクト)」など、環境教育・環境学習活動を担当している事業課の大西さんにお話をうかがいました。

10万8034人です。各登録クラブの活動内容は自主的なものですが、植樹や自然観察、丸太切りの体験をしたりといった森に親しむ活動が数多く行われています。子どもエコクラブでは、登録クラブの活動に対する有識者の方からの評価や助言、活動に役立つツールの提供や全国交流会の開催、活動報告をすると貰えるアーススタンプ5個で地球を守るアースレンジャーとして認定する取組などを通して子どもたちの活動のステップアップを支援しており、今後もこの事業を通して、森に親しむ子どもたちを増やしていきたいと考えています。

4つのアクション 活動紹介

横浜市立永田台小学校(神奈川県)

どんぐりの生長



どんぐりとともに里親に送られる「どんぐり育て方マニュアル」



里親のもとで成長したどんぐり(9月、相模原市立田名北小学校(神奈川県))



拾ったどんぐりは、専門家の指導のもと放射線量の測定を行い、安全が確認できた種子のみを里親に送っています。



どんぐりひろいバスツアー in宮城
(10月27日、宮城県国立花山青少年自然の家)



今日からやろう! 森のための

4つのアクション



森にふれよう



木をつかおう

2012年度のどんぐりを育てていただけの方を募集中です。多くのみなさんのご応募をお待ちしています。

●対象

子どもたちとともにどんぐりを育てていただける団体(学校、NPO、企業等)、地域、家族・個人。趣旨にご賛同いただける団体、地域、家族・個人であれば、どなたでも参加できます。

●申込期限

2013年1月31日まで
詳しくは、プロジェクトDのホームページをご覧ください。

プロジェクトD ホームページ

<http://www.project-donguri.com/>

こどもエコクラブは随時メンバーを募集中。登録料・年間費は無料です。

●登録

仲間(子ども1名以上、活動を支える大人1名以上)を集めて、こどもエコクラブのホームページから登録してください。



こどもエコクラブ ホームページ

<http://www.j-ecoclub.jp/>

今年度は、宮城県と岩手県、そして福島県でどんぐりひろいバスツアーを開催。採取した種子を、全国の里親に届ける予定です。

昨年度は、関係各所に協力を依頼して被災地での種子採取イベントを7回開催していただき、集まった56.5kgのどんぐりのうち1万個を、「どんぐり育て方マニュアル」とともに全国75の参加団体、2019人の里親に送りまし

た。開けの年でした。そこで森林と生物多様性を結びつけ、子どもたちが被災地のためにできるプロジェクトとしてスタートしたのが、被災地で大きな被害を受けた海岸防災林で必要になる苗木を全国の子どもたちで育てて送ろうという事業、プロジェクトDです。本事業は、被災地のどんぐりを拾い、全国の子どもたちが里親となつて苗木を育て、被災地に植林して森を育てること

で、被災地を支援するとともに地域における生物多様性の保全についても普及・啓発することを狙いとしています。今年度は、植林から森の育成に至る計画や、子どもたちが育てた苗木をデータベース化し、どこに植えられたかをわかるようなシステムを構築すること等を通して、被災地と全国がどんぐりを通じてつながり、震災で傷ついた子どもたちの心を癒すとともに、全国の子どもたちも復興への貢献を実感できる「しくみ」づくりを推進していきたいと考えています。

育った苗木は、平成26年春から被災地で植樹する予定ですが、現在は苗木の輸送体制や植樹地について詳しくは決まっていないため、事業経過を見守りながら決定していこうと考えています。昨年度は事務局に置いた処理前のどんぐりから虫が発生したり、1月に送付したどんぐりが7月になってやつと発芽した例や、まったく発芽しない例があつたりと、自然を相手にするということの難しさを私たち事務局も子どもたちと一緒に学びました。